

鹿児島県海域におけるモジャコの来遊状況と ブリ産卵海域周辺の水温動向

資源管理部 主任研究員 梶島光次郎

目的 春先に鹿児島県海域で養殖種苗用として漁獲されるモジャコ(ブリ稚魚)の来遊予測手法の確立を目的とし、ブリの産卵海域である東シナ海南部海域における産卵時期(2~3月)の水温動向とモジャコ漁期中の来遊状況の関連を明らかにする。

材料・方法

- JADE2(拡張版日本海海況予測システム)より、ブリの産卵海域周辺(N121° ~124°, E26° ~30°)(図1)における産卵期(2~3月)の海面水温データを過去10年分抽出・分析した。(図2)
- 本県の過去10年分の日別モジャコ採捕実績報告より、鹿児島県海域における各年のモジャコの来遊状況を整理した。(図3)
- 各年の産卵期の水温動向とモジャコの来遊状況について比較検証を行った。

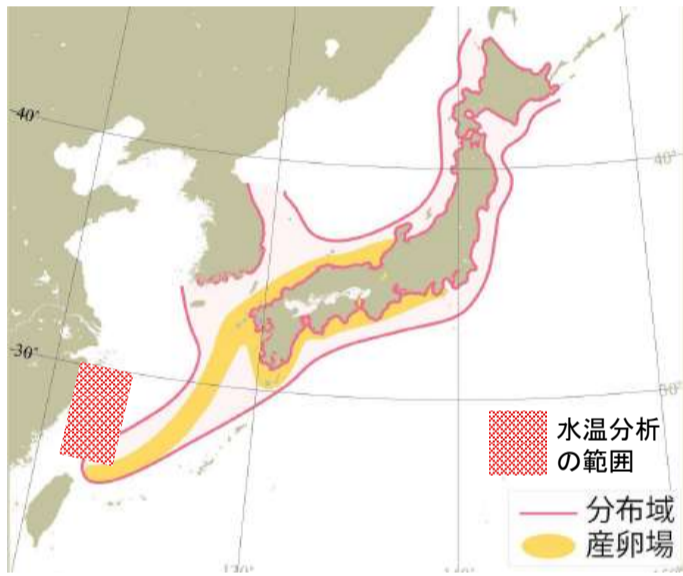


図1 ブリの分布域と産卵場
令和元年度ブリ資源評価報告書(水産研究・教育機構)より引用

結果・考察

モジャコの来遊が早い(4月上~中旬頃)年は、最低水温を記録した日も早い(2月上~中旬頃)傾向(H27年を除く)



水温動向が産卵親魚群の回遊に影響を与え、モジャコの来遊ピークに関連している可能性

今後の課題

産卵親魚群の行動に対する水温動向の影響の解明

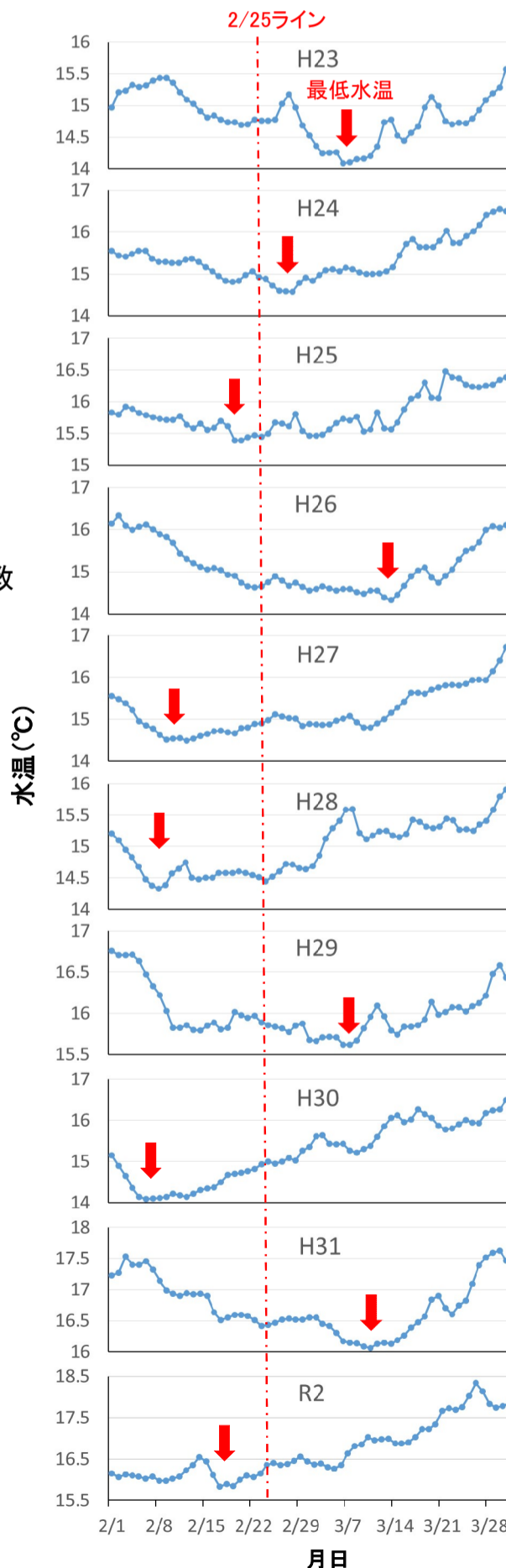


図2 水温分析範囲の水温動向

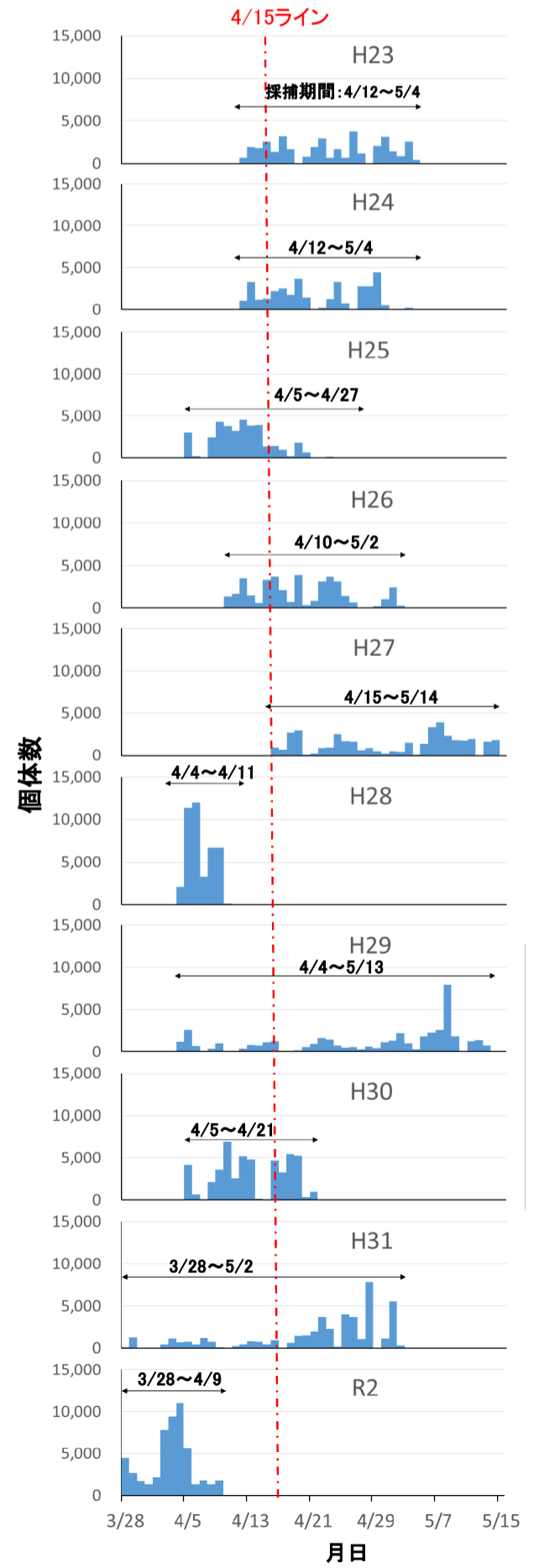


図3 モジャコの日別漁獲個体数